

# 逆縁ぎやくえん

「逆縁」は元の意味と世間で使われている意味が大きく異なる代表格でしょう。世間で「逆縁」というと、

先に若い人が亡くなることを意味します。ところが、広

辞苑で「逆縁」を引くとこの意味では出てきません。

① 仏に反抗し、仏法をそしることなどがかえって仏道に入る因縁となること。

② 年長者が年少者の供養をなし、または生前の仇敵が供養すること。親類縁者でもない、通りすがりの者が供養すること

③ 自己の修行を妨げる因縁

とあります。元々逆縁とは、仏教を嫌だと思っていたことが逆に縁となり仏道に入ることを言っていました。若い人が亡くなることを逆縁と言うようになったのは、②の意味が変化をしたのです。年長者が年少者の供養をすることが転じて若い人が亡くなるという意味に転じたのです。

先に我が子を亡くした住職が言われていました。「死

は怖くはない。息子がいる家に帰ると

思うと怖くはないのだ」と。仏法を頂く

とむなしくすぐる人はないのです。



ネンがばかに  
いひや  
私がネンそばかに

したのです  
オレも

## こんなところに 仏教用語

身近な仏教用語を紹介しています。

# 獲得ぎやくとく

「かくとく」と読みたいところですが、仏教用語としては「ぎやくとく」と読みます。意味は得ることといいたいのですが、

「いただく」としたほうが浄土真宗の意味合いになります。

ここから先は知っておくと正信偈などの意味がわかりやすいという知識の話です。

「獲」と「得」の違いについてです。同じ意味をもつ漢字を並べた二字熟語ですが、親鸞聖人は「獲」と「得」を使い分けておられます。

「獲」は我々が生きているときに阿弥陀如来の慈悲をいただくことや、生きている間の利益を「獲」と表記されます。

正信偈を見ますと、「獲信見敬大慶喜」（信心を賜り、如来のはたらきを慶ぶ人は）や「必獲入大会衆数」（必ずや仏に成る位に定まるのです。）とあります。

「得」は、この世のいのちが付き、すぐに仏になる利益を「得」と表記されます。

正信偈には「得至蓮華藏世界」（極楽浄土に往生すれば）とあります。

「獲」と「得」を意識して正信偈を読んでみてください。

